

「主体的に学習に取り組む生徒の育成」  
～ 思考力・判断力・表現力等の育成を通して ～

## I 研究の内容

生徒が諸活動において的確な思考と判断の下，それぞれの個性が出せる表現活動の場となるために，基礎能力を育み，学習活動を充実したものにするための基礎学力向上の取り組みに主眼を置いた。

- ① 表現力を身につけさせるための言語活動の充実  
表現力の育成を図るための手立てを踏まえた活動づくり。
- ② 学習効果を高める生活習慣，学習規律の確立
- ③ 思考力・判断力・表現力等を育む授業の創造。  
生徒一人ひとりが，意欲を持って学習に取り組むための工夫。
- ④ 確かな学力向上を目指し，基礎的・基本的な知識・技能の習得と定着を図るための学習習慣の確立（家庭学習）  
学級・学年において，家庭学習を中心に生徒の学習習慣の確立を促すための工夫。

## II 具体的な研究実践

- 1 表現力を身につけさせるための言語活動の充実として，授業実践，研究討議。
  - (1) 校内研究の取り組み … 学級活動（石井美保教諭）
  - (2) 音教連の研究公開との関わり … 音楽〔プレ授業・発表授業〕（竹川美和教諭）
  - (3) 初任研との関わり … 学級指導〔保健指導〕（小林香苗養護教諭）  
… 学級指導〔食教育〕（五味秋津栄養教諭）
  - (4) 特別活動における取り組み … 生徒会活動（平山剛教諭）
- 2 学習効果を高める生活習慣，学習規律を確立するための学年研究。
  - (1) 学年ごとの学習の習慣化と基礎学力向上への取り組み
  - (2) 生活と学習に関するアンケートについて（2回，年度始・年度末）
- 3 キャリア教育について  
丹澤指導主事を招き，キャリア教育についての学習会。

## III 成果と課題

### 1 成果

○テーマに言語活動，表現力というキーワードが入ることでそれぞれが授業づくりに意識できた。また，発表力をつけさせるために授業の中で工夫をした。発表しやすい雰囲気づくり，発言することの大切さを説いた。

○授業の中でテーマを設定しディベートを試みた。相手の意見を聞き自分の意見を発表する機会となった。

○音楽の伝統文化教育研究，初任研，学級活動に関する研究授業を通して，表現力の育成について研究する場が設定できた。研究授業に向けて検討を重ねる中で，今まで以上に生徒がお互いに認めあえるような環境をつくることができた。

○保健指導の中に“表現力の育成”という項目を入れて取り組むことができた。

○教科の授業の中で学ぶことの意義についても指導する時間をとれた。また，学ぼうという意欲が授業の中で見られた。学校生活を通し教科書の内容だけを学んでいるのではないという意識が高くなってきた。

○時間，行動，提出物等基本的なことができるよう取り組む中で，学習意欲も高まり落ち着いた雰囲気の中で授業できるようになった。生活習慣の確立，挨拶，授業規律，身だしなみなどに指導している成果が見えてきた。

○生活習慣について，学園祭での発表や掲示物 etc.を使って生徒が主体的に呼びかけることができてきた。

○家庭学習記録表などを用いて計画的に取り組み，その反省を生かしていくことで，少しずつ家庭学習が効率的にできるようになってきた。更に，補充学習を実施することで各教科の基礎的な力が身につけてきた。

## 2 課題

授業の中で教えあう活動を取り入れているが，言葉のキャッチボールをどのように意識させていくか。集会等における意見交換や発表の方法など，さらに研究していく必要がある。また，自分の意見を書けてもなかなか発表できない生徒をどう変えていくかも課題である。さらに，指導で終わってしまい考えさせるところまではいかなかった。また，「表現力」とはどこまでなのかとか統一した見解が必要である。

生活習慣については，本人，家庭の意識改革が必要であり，なかなか改善が難しい面が見られる。家庭学習の時間が増えない（定着しない）生徒への指導が難しく，宿題の出し方，それにより小テストの出し方など工夫をしなければならない点が多々あった。このことは，定着させるためにはポイントになると考えられる。また，家庭学習に対して，言葉では生徒たちに伝えても，それをチェック，評価まで細かな指導の時間の確保が難しく個別指導に支援が必要な生徒に対する時間の取り方を考えていく必要がある。

寝る時間が遅い生徒，朝食を食べてこないし，食べる習慣がない生徒が若干見られ（生活実態調査より），集団指導と併せて個別指導が必要である。

理想は，次の授業が楽しみで思わず予習をしてしまう，今日の授業がおもしろく思わず復習してしまう…，その域に到達できる授業の工夫をこれからも研究していく。

## IV 成果物

指導案（5教諭，6授業）

定期テスト取組表（1学期中間・期末，2学期中間，期末 各学年独自の形式）

生活実態調査（2回全校一斉）（研究主任 小林 誠治）